

授業づくりのポイント

○高校生が、小学生に教える場面を設定し、高校生は教えることを通じて自分自身の行動を振り返り情報モラル意識を高めていく。

単元について

1 題材名 「スマホミーティング」

2 目的

I - 5 スマートフォン・携帯電話等使用時の安全

スマートフォン・携帯電話等を使用するときの危険やサイバー犯罪について理解し、安全に利用できるようにする。

3 教材化の視点

スマートフォンやSNS等の普及を受け、ネット上のいじめを含め、情報化の影の面へ対応することは、喫緊の課題である。日々新しい機器や便利なサービスが生み出される中、子供自身が情報の「光と影」をよく理解し、適切に利用できることが必要である。

そこで、高等学校の生徒が、小学校の児童に教える場面を設定し、高等学校の生徒は教えることを通じて自分自身の行動を振り返り情報モラル意識を高めていく。なお、小学校の児童にとっては年齢の近い高等学校の生徒から教わることで教員や専門家とは違う視点で情報モラルの重要性を学ぶことができる。

指導計画（1時間扱い）

時間	○主な学習活動【高校生】	◎安全教育の視点に立った留意点
1 (本時)	○高等学校の生徒は、小学校の児童へ教えることを通じて自分自身の行動を振り返り情報モラル意識を高める。	◎小学校の児童が小グループに分かれてのディスカッションを行う際に、1グループに高等学校の生徒が加わる。 ◎高等学校の生徒がコーディネートし、グループごとの発表とまとめを行う。 ◎高等学校の教員が、全体講評を行う。

指導事例（第1時／1時間）

1 ねらい

- ・小学生が現在又は将来スマートフォンを使用する際に、適切に使用するための知識を身に付けることの重要性について伝えることを通じて、適切な利用のための課題をもたせる。
- ・自分自身のスマートフォンやインターネットの利用の仕方について考え、適切に利用していこうとする態度を養う。

2 指導の実際

	○主な学習活動【高校生】	◎支援・留意点 ■評価（評価方法）
導入	○SNSの概要説明を行う。	◎SNSの概要の説明のみにとどめ、SNSの利点をクローズアップして説明する。 ◎携帯ゲーム機通信対戦時のチャットなども紹介し、身近なものであることを意識させる。
展開	○グループでディスカッションを行う。 ・スマートフォンやゲーム機所持の確認 ・事例の感想 ・デメリットを考える	◎スマートフォンやゲーム機を持っている人の意見を参考にさせながら、一人ずつ簡単に意見や感想を言ってもらう。 ◎コーディネーターがスマートフォンの実機を見せながら、メリットとともにデメリットを引き出す。
	○グループでのディスカッション（つづき） ・ルールアイデアを出す	◎デメリットがある程度出た段階で、ルールのアイデア作りに移行する。 ◎デメリットを防ぐには、どのようなルールをつくればよいのか、という視点で考えてもらう。 ◎グループ毎に、高校生がフォローし児童に発表してもらう。 ◎同じ内容でも、自分たちが話し合った中での言葉で表現してもらう。
まとめ	○グループごとに発表を行う。 ・1グループ1分程度で発表	◎SNSは、すぐに広まることや、取り消せないこと、不特定多数の人に見られていること、グループだけに見えても、実はオープンであることを説明する。 ◎「自分たちが守るルールなので、守れる現実的なルールを作る。」ということを大切にすることを強調する。
	○グループ発表を受けての講評を教員が行う。	■自分自身の行動を振り返り、スマートフォンを安全に利用するためのルールについて記述している（ワークシート）。
	○授業の振り返りを行う。	

スマートフォンを適切に使用するためのルールとは何だろうか。



高等学校生徒の感想

- ・私たち自身のスマートフォンのモラルを考えることにつながり、改めてSNSの危険性に関して考えるいい機会になったかと思います。
- ・情報モラルという難しい内容を小学生に分かりやすく伝えるのは難しいと思った。
- ・自分が事前に考えていた問題点よりも多くの問題点が挙げられた。自分の情報に対する認識も少し甘いと思った。
- ・自分は普段SNSは世界中に広がっている、ということを忘れがちになるので、これからはより意識して使おうと思った。

生徒の変容

- ・高校生が小学生に教えるという活動を通して、自身の情報モラルを更に高めるとともに、高等学校全体での情報モラルを高めることにつながった。